



## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

- ・国語 A(知識に関する問題)の平均正答率は全国平均より 1.2 ポイント、市の平均よりも 2.5 ポイント下回っている。
- ・国語 B(活用に関する問題)の平均正答率は全国平均より 1.3 ポイント、市の平均よりも 3.1 ポイント下回っている。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語 A】

	本 校	宇都宮市	全 国
平均正答数	24.1/32 問	24.9/32 問	24.4/32 問
平均正答率(%)	75.2	77.7	76.4

分 類	区 分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	77.3	79.2	77.6
	書くこと	4	64.6	67.1	64.5
	読むこと	6	80.3	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	75.4	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	77.5	79.2	77.3
	短答式	11	70.7	74.9	74.7
	記述式	0			

##### 【国語 B】

	本 校	宇都宮市	全 国
平均正答数	5.9/9 問	6.2/9 問	6.1/9 問
平均正答率(%)	66.1	69.2	67.4

分 類	区 分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	57.6	63.3	62.7
	読むこと	8	67.0	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	59.0	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	68.6	70.4	68.2
	短答式	1	79.1	80.9	77.5
	記述式	3	57.6	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【話すこと・聞くこと】

○A 取材の仕方の説明として適切なものを選択する設問では、市の平均正答率を上回っている。

●A 論理的な構成や展開を考えて話すことに苦手意識を持つ生徒が見られる。

### 【書くこと】

○A 書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に書き直す設問では市の平均正答率を約 5 ポイント上回り、高い正答率を示している。

●B 短答式や記述式の問いに対して、苦手意識が表れている。

### 【読むこと】

○A 文章の構成や展開から内容をとらえる設問は市の平均正答率を上回っている。

●A 文章を読んで、感じたことや考えたことをまとめることに課題が見られ、支援が必要である。

### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

●B 漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことに苦手意識が表れている。

### 【その他】

●B 記述式の問いに対して、自分の考えを取り入れて答えることが苦手である。

●A 漢字を書く設問、漢字を読む設問で全国・市の平均正答率を下回っている。

## 国語に関する生徒質問紙調査の状況

### 《傾向》

○「読書」に対する肯定割合は全国との比較で 4.2 ポイント高く、活字に対する抵抗は少ない。また、古典に対して苦手意識を持つ生徒も全国に比較して少なく、「読むこと」は好きな生徒が多いことが分かる。朝の読書や生徒たちが複数の新聞を手軽に読める環境づくりが効果を上げていると思われる。

●「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対する肯定割合は、全国との比較で 5.1 ポイント低く、国語学習の意義を理解できていない傾向が見られる。実際の場面に即した体験的な言語活動を取り入れ、国語の大切さを実感させたい。

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

・スピーチの準備で効果的な展開を考えるためのメモや聞き取りで展開に即して大切なところをメモしていくなどの活動の充実を図る。

### 【書くこと】

・問いに対して適切に解答できるよう問題演習を通して考えを深めさせていく。

### 【読むこと】

・小説の読解などで、感じたことや、登場人物の心情を考えるなど、感性を磨きつつ、それを文章化することが必要である。

### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・日常生活の中でも漢字や言葉遣いを意識させ、考える力を伸ばしつつ、適切な表現ができるよう指導していく。

### 【その他】

・日頃の学習活動の中で、自分の考えを発表したり、書いたりすることを重視する。

・漢字の読み書き継続的に取り組む学習習慣の定着を図る。

## 2 数学

### 全体的な傾向

- 数学A(知識に関する問題)の平均正答率は58.9%で、全国平均よりも4.8ポイント、市の平均よりも6.1ポイント下回っている。
- 数学B(活用に関する問題)の平均正答率は38.7%で、全国平均より約2.8ポイント、市の平均より3.6ポイント下回っている。

### <分類・区別集計結果>

#### 【数学A】

	本 校	宇都宮市	全 国
平均正答数	21.2/36問	23.4/36問	22.9/36問
平均正答率(%)	58.9	65.0	63.7

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	67.5	73.5	72.7
	図形	12	60.8	66.4	64.6
	関数	9	53.9	60.0	58.7
	資料の活用	4	41.0	48.3	46.8
問題形式	選択式	18	57.8	63.6	61.8
	短答式	18	60.0	66.3	65.5
	記述式	0			

#### 【数学B】

	本 校	宇都宮市	全 国
平均正答数	6.2/16	6.8/16	6.6/16
平均正答率(%)	38.7	42.3	41.5

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	37.8	43.0	41.7
	図形	2	44.4	45.1	44.8
	関数	6	37.7	40.1	40.0
	資料の活用	3	38.3	43.8	42.2
問題形式	選択式	4	42.3	43.2	43.3
	短答式	5	50.5	57.8	55.8
	記述式	7	28.2	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区別の傾向と課題

### 【数と式】

- A 基礎的な計算問題でつまづいている傾向がある。特に、分数の乗法、正の数と負の数の計算で全国・市の平均を下回っている。
- B 問題場面を正確に捉えることでの正答率が低く、無回答の割合も高くなっている。

### 【図形】

- A 平行四辺形になるための条件、角の二等分線の作図の根拠、球と円柱の体積の比較など、図形の性質や合同条件などの基本的な用語の理解が低い。

### 【関数】

- A 証明の方針に関する問題の正答率は全国。市の平均と同程度である。
- A 比例定数から比例式を求める問題、比例の表からグラフを選ぶ問題の正答率が低く、また、1次関数の分野では無回答の割合が高い。
- B 与えられた表から情報を適切に選択し、処理すること、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

### 【資料の活用】

- A 言葉の意味は理解しているようであるが、活用する問題になると正答率が大きく低くなり、無回答の割合も高くなる。
- B 資料から必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。

## 数学に関する生徒質問紙調査の状況

### 《傾向》

- 「数学の勉強が大切」と考えている生徒の割合は76.3%で全国と比較するとやや低く、「数学が将来社会に出た時に役立つ教科」と考えている生徒の割合は68.6%であり、全国と同程度である。
- 今回の数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題があったが、「最後まで解答を書こうと努力しましたか」の問いに「努力した」と回答した割合は国や市より高いが、無回答の割合は国や市より高くなっている。

## 指導改善のポイント

### 【数と式】

- ・正負の計算や文字式の計算などの基本的な計算のしかたについて理解を深めた上で、反復練習を行い、より確実な定着を図る。
- ・問題場面を正確に捉えるために、文字式の知識や技能を活用して身近な事象や数量の関係などを捉える機会を充実する。

### 【図形】

- ・図形の基本的な用語の定着のために、常に黒板に用語を明示したり、ミニテストで定着度を確認したりしていく。

### 【関数】

- ・表、式、グラフの関係の中で、表からグラフ、グラフから式を導けることなどの相関関係を意識できるように板書を計画する。
- ・表やグラフから情報を読みとる活動を多く取り入れ、数学的に説明する力を高める。

### 【資料の活用】

- ・資料から必要な情報を読み取り、資料に基づき計算処理する学習を多く取り入れ、自分の言葉で説明する場面を多く取り入れていく。

### 【その他】

- ・授業での学習のしかたを徹底するとともに、宿題や課題など家庭学習の充実を図ることで、基礎・基本の確実な定着を図る。

### 3 生徒質問紙調査

#### 〈学校や家庭での学習について〉

・授業以外の一日の学習時間は、約 4 割の生徒が 2 時間以上であり、全国の傾向と同程度である。一方、1 時間未満の生徒の割合が約 3 割見られる。

・家で学校の宿題を行っている肯定的回答の生徒の割合は、84.3%で、全国・県の平均をやや下回っていることから、適切な量の課題を与え、学習に継続に取り組む習慣を定着させる必要がある。

・授業の中で考えを発表する機会や話し合い活動の機会に関する設問では、肯定的回答はそれぞれ 70.7% 57.1%となっており、全国・県の平均を下回っている。学習形態の工夫や言語活動の充実に取り組むことが一層求められる。

・一日の読書時間について、1 時間以上読書する生徒の割合は、12.8%であり、全国平均をやや下回る。一方、不読率は 32.1%であるが全国平均より低く、本を読まない生徒の割合は全国より低い。朝の読書の時間の効果がうかがえる。

#### 〈毎日の生活について〉

・「学校へ行くことが楽しい」と思っている肯定的回答は 85.5%であり、全国平均を上回っている。引き続き、生徒の思いや願いを受け止めながら、生徒にとって自己実現が図れる活動の推進に取り組んでいく。

・「携帯電話やスマホで通話やメールを毎日している」生徒の割合は、約 35%である。これは全国平均をやや上回っている。また、携帯電話やスマホの使い方について「家の人と約束したことを守っているか」の設問では「守っている」という肯定的回答の割合は 48.6%であり、全国平均をやや上回っている。携帯電話やスマホの使い方については、家庭での約束事を決めて使用するよう、家庭への啓発を保護者会や学校からの各種の便りを通して引き続き啓発していきたい。

・将来の夢や希望を持っているかの質問では、74.3%の生徒が肯定的回答をしており、全国平均をやや上回っている。引き続きキャリア教育を推進し、目的に向けて中学校で自分が行うべきことを粘り強く実行する態度を培っていききたい。

・家庭での手伝いについては、肯定的回答は 62.7%であり、全国平均をやや下回っている。できることを進んで実行するよう家庭への啓発を図っていく。

・「学習の規則を守っている」と答えた生徒の割合は 9 割を超え、全国平均と同程度である。きまりやマナーを守ることの大切さを、生活指導、道徳・学級活動の時間等、様々な場で培っていく。

・「いじめはどんなことがあってもいけないことと思うか」の質問では、93.6%の生徒が肯定的回答をしている。

また、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思うか」の質問では、約 95%の生徒が肯定回答をしている。いずれも全国平均と同程度である。実生活や道徳の時間などを通して具体的な資料に基づき豊かな心を育てていく。